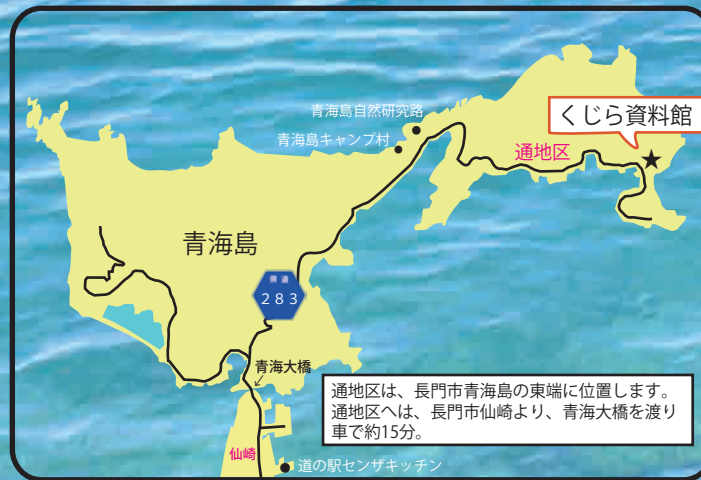




海に生き、捕鯨を日々の糧として
生かされてきた海の男たちの
壮大な物語は
常に鯨の悲哀をとらなっていた。
豊漁の宴に酔いながらも、
浦人たちの心は決して
やすらぐことはなかったのである。
しかし、そこには
人間と鯨の「生」への真摯な姿がある。
古式捕鯨が歴史の
一ページになろうとも
その心は今もここに生きています。



■アクセス

道の駅センザキッチンから車で20分
長門市駅から車で25分、バスで30分
※通漁協前のバス停から歩いて30秒

■開館時間

9:00~17:00 (入館は16:30まで)

■休館日

毎週火曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始
※臨時休館あり

■入館料

一般200円(団体160円)、小中・高校生100円(団体80円)
※団体は20名以上
※長門市民は無料
※市内の学校の児童・生徒は無料(証明となるものの掲示が必要)

長門市くじら資料館

〒759-4107 山口県長門市通671-17
TEL/FAX:0837-28-0756
<https://kujira-nagato.com/>
mail:info@kujira-nagato.com

日本一小さな資料館



長門市くじら資料館

Nagato Whale Museum



通鯨唄
 祝元目出度めでた（大唄一番）
 祝元目出度の 若松様よ
 枝も栄えろ 葉もしげる
 竹になりたや 薬師の竹に
 通栄えろ しろしの竹よ
 納屋のろくろに 綱くりかけて
 大せみ巻くのには ひまわない
 三國一じや網に 今年は大漁しよ
 ヨカホエ



北浦と呼ばれる山口県北部の沿岸地域では、古くから捕鯨が行われていました。ここ通浦では、旧暦10月～翌年3月にかけて、日本海を北から南へと移動する鯨を捕獲していました。江戸時代に苧網を用いた網取式捕鯨がはじまって全盛を迎え、近代捕鯨が始まる明治の終わりにその幕を閉じました。ここ長門市くじら資料館には、古式捕鯨と通の漁民たちの歴史を伝える様々な資料を展示しています。

国指定 重要有形民俗文化財

長門の捕鯨用具



本館所蔵の「長門の捕鯨用具」140点は、通浦、瀬戸崎浦の鯨組が網取式捕鯨で使用していたものが中心で、捕鯨用具34点、解体用具33点、加工用具9点、船用用具17点、仕事着11点、その他（締太鼓、捕鯨鑑札等）36点からなっています。各用具などの詳しい解説も加えており、古式捕鯨の様子を生き生きと感じることができます。

通地区に残るくじら文化

県指定 有形民俗文化財

鯨位牌および鯨鯨過去帳



鯨位牌および鯨鯨過去帳は、向岸寺五世讚誉上人が隠居し、清月庵に観音堂を建立して鯨の回向をはじめのち、鯨墓と一体のものとしてつくられたものです。以前は観音堂にありましたが、現在は向岸寺に安置されています。

国指定 史跡

青海島鯨墓



青海島鯨墓は清月庵の敷地内にあります。捕獲された母鯨を解体したときに出了た胎児を村人が手厚く吊ったもので、七十数体が眠っています。鯨の胎児が実際に埋葬されている墓は珍しいことから国の史跡に指定されています。

市指定 無形民俗文化財

通鯨唄



通鯨唄は、通鯨組の人々が大漁を祈り、あるいは大漁を祝って歌いならしてきました。鯨に対する感謝の気持ちを表すとともに鯨の死を心の底から悼んで、手拍子とはらず、「揉み手」で歌われます。鯨組が無くなった今は通鯨唄保存会によって伝承されています。

国指定 重要文化財

早川家住宅



江戸時代、鯨組創業に貢献し、代々網頭・浦方役人として活躍した早川家の住宅です。天明5年（1785年）の通浦大火で早川家の当時の住宅が類焼したため、元網頭で廻船問屋を営んでいた黒川甚兵衛の蔵を買い取って移り住んだものが現在の住宅であると伝えられています。